

レンタルサーバーVPS 利用体験記

(VPS サーバー設定編)

Shu JA3GQJ

はじめに

レンタルサーバー申込編で「ABLENET」の VPS サーバーが試用できるようになったので今まで Raspberry Pi で運用していた XLX リフレクターの移設を目的に自分用の仮想 PC にする為の OS をインストールして設定をします。ところが、VPS レンタルサーバーの仕組みをよく理解しないまま作業に取り掛かった関係で失敗の連続でしたがその体験記をここにまとめました。その道の専門知識が豊富な方々にとってはごく当然なことでも知識に乏しい当局が苦労したところ等はこれからリフレクターを開設したいと躊躇されている方々のヒントになると思います。

OS インストールの過程で Raspberry Pi で使用していた ieserver から取得したホスト名とドメイン名を引き継ぐためのネットワーク設定をするところがポイントです。

1.VPS レンタルサーバーについて

「ABLENET」を使用することにしたが、当初 VSP の仕組みが理解できていませんでしたが、後に、仮想遠隔 PC つまり「自分の PC を遠隔で操作するもの」と言う理解に至りました。自宅サーバーとの違いは次の点だと思います。

自宅サーバー

- ・ローカル IP アドレスしかないので ieserver 等のプロバイダーで無料のグローバル IP アドレスを入手してホスト名とドメイン名を決める必要がある。
- ・自宅のルーターの電源が落ちた後、IP アドレスの更新が必要。(結構厄介)
- ・XLX リフレクターの設定にはローカル IP アドレスを使う。

レンタルサーバー

- ・「ABLENET」からグローバル IP アドレスが割り当てられるがホスト名とドメイン名は ieserver 等のプロバイダーで使ったものを使用する。
- ・XLX リフレクターの設定にはグローバル IP アドレスを使う。
- ・自宅サーバーのようにルーターのポート開放の煩わしさがなく、IP アドレス変動の心配もない。

2.「ABLENET」のコントロールパネルへアクセスする

レンタルサーバー申込編で ABLENET から届いた「VPS サーバー設定完了通知／試用について」と題した「契約（試用）情報」に従って、コントロールパネルへアクセスしますが利用開始までの難題が朱書きのホスト名、ドメイン名の「※ホスト名、ドメイン名は仮のものとして弊社が設定しているものです。運用時はお客様がご自由に

設定頂いて構いません。」という行で、意味が理解できたのは試用を始めてから一週間後でした。

===== 契約(試用)情報 =====	
省略	
ABLE パネル	
VPS サーバーの操作や情報の確認、弊社へのお問い合わせ等は専用の「ABLE パネル」より行ないます。	
ABLE パネルの URL	https://vpsadm.ablenet.jp/
ABLE パネル ID	ABCDEFGHIJ
初期パスワード	xxxxxxx
※お客様が変更された ABLE パネル ID のパスワードは、弊社でも判りません。万が一お忘れの場合、お客様ご自身による再設定が必要となりますので、管理には充分にご注意下さい。	
サーバー情報	
VPS 名	BTHxxxxx
IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xx
ネットマスク	255.255.255.0
ゲートウェイ	xxx.xxx.xxx.x
ネームサーバー	xx.xxx.xxx.xx xx.xxx.xxx.x
ホスト名(弊社設定値)	hxxx-xxx-xxx-xx
ドメイン名(弊社設定値)	vps.ablenet.jp
※ホスト名、ドメイン名は仮のものとして弊社が設定しているものです。運用時はおお客様がご自由に設定頂いて構いません。	
■ サーバーについて	
本通知が届いた時点で仮想サーバーのご利用が可能です。一部 OS を除き「初期化前」状態でのご提供となります。ABLE パネルの「初期化」メニューより、お選びいただける任意の OS をインストールしてご利用ください。使用方法につきましては、サポートページ「ABLE パネル」でご確認下さい。 http://ablenet.jp/vps/spec/ablepanel2.html#acv-4-2	
なお、お申込み時に Windows Server 2008R2/2012 をお申込みいただいたお客様につきましては、初期化完了状態でのご提供となります。別途メールをお送りいたしますので、そちらを御確認ください。	
■ ドメインについて	
ドメインもお申込みの場合は、以下をご確認ください。 http://www.ablenet.jp/vps/faq/faq02.html#faq1-117 gTLD (com/ net/ org/ info/ biz) ドメインをお申込みのお客様は、以下もご確認ください。 http://www.ablenet.jp/vps/spec/op_domain.html#domain04	
以下省略	

3.サーバーのコントロールパネルにログインする

「VPS サーバー設定完了通知／試用について」と題した「契約（試用）情報」に従って、ABLE パネルの URL <https://vpsadm.ablenet.jp/>を開くと ABLE パネル ID とパスワードの入力画面になりますので「契約（試用）情報」にある ID とパスワードを入力して「ログイン」をクリックします。ログイン方法は試用・本使用とも同じです。



4. サーバーに Debian 7.8(wheezy) x86_64(OS)をインストールする準備

初期設定の主目的は遠隔から操作できる自分の仮想パソコンである VPS サーバーに OS をインストールすることです。デフォルトでインストールされる OS は CentOS ですが、かなり多様な OS を自分の好みで選べますので試用期間中に色々試した結果、Debian 7.8(wheezy) x86_64 をインストールすることにしました。以下は正規使用決定後の OS インストール手順です。

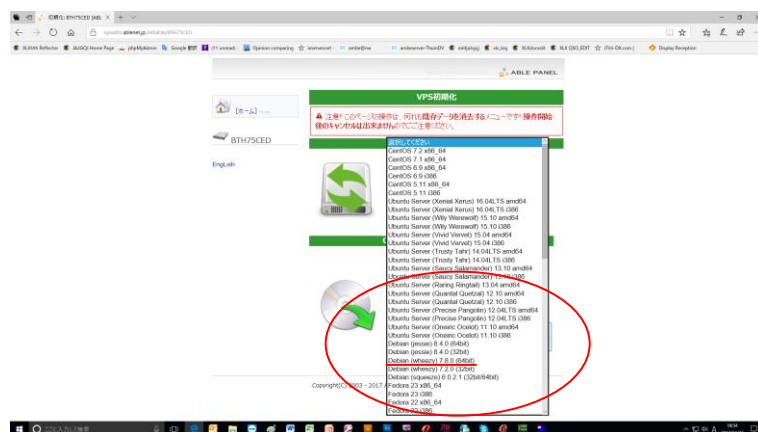
- ・ログインで開いた VPS 管理画面で「初期化」ボタンを探してクリックする。画面左上に見えるグリーンの中の文字は識別子のニックネームで、画面右上の「ニックネーム変更」ボタンを押して好みの名前に変えることができます。



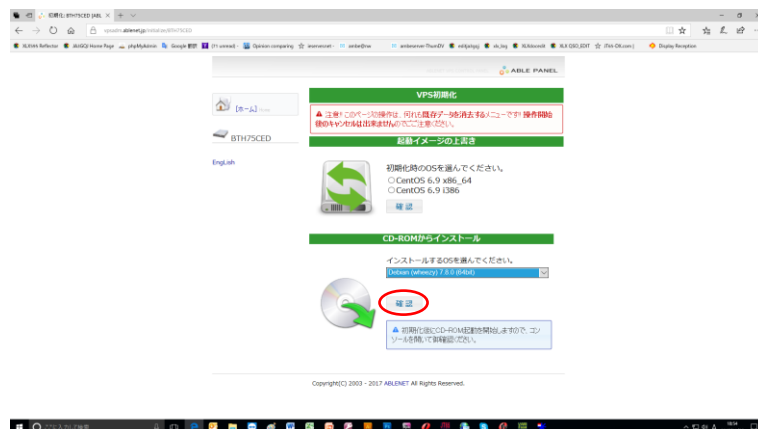
- 開いた VPS 初期化画面



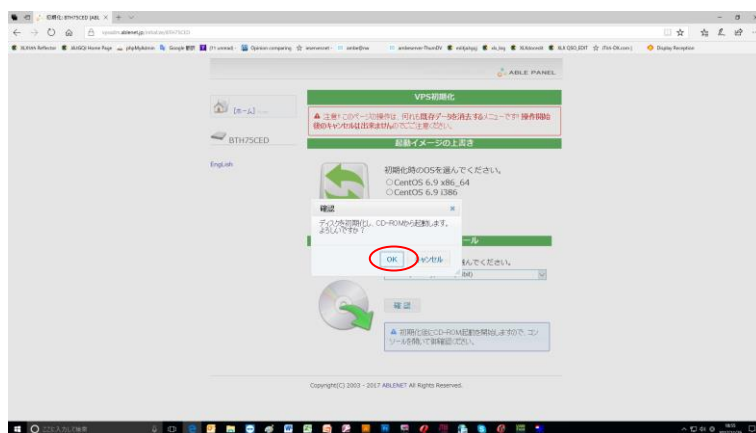
- 開いた VPS 初期化画面で「CD-ROM からインストール」のプルダウンメニューの「インストールする OS を選んでください」から Debian 7.8(wheezy) x86_64 を選択する。



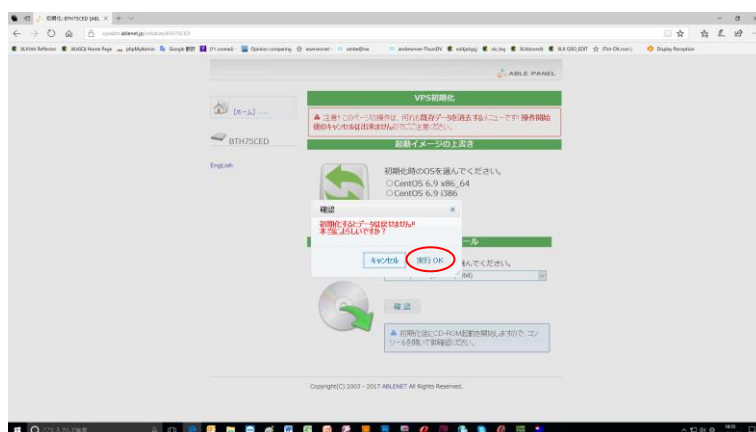
- OS を選択して開いた画面で「確認」をクリックする



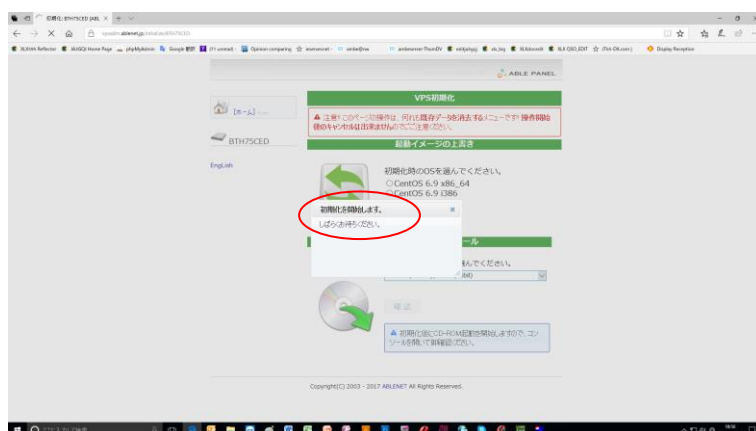
- ・確認をクリックしたら更に小さな確認の画面がポップアップするので「OK」をクリックする。



- ・次にポップアップする画面の「実行 OK」をクリックする。

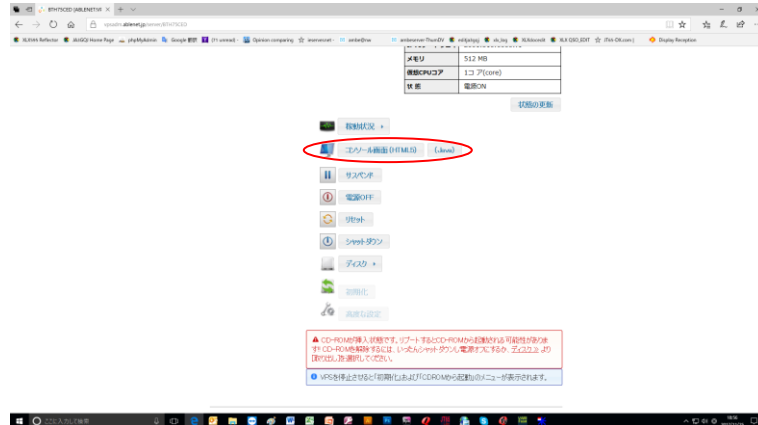


- ・すると、「初期化を開始します」（しばらくお待ちください）の小さな画面がポップアップして初期化が始まります。



- ・次のようなコントロールパネル画面に戻って「コンソール画面（HTML5）」をクリックします。ところが肝心のコントロールパネル画面に戻る方法の記録を忘れたためそれを再現するには「XLX リフレクターソフトインストール編」で説明する XLX リフレクターソフトの再インストールまで行う必要がありますので今回は省略

せざるを得ませんが、試用期間中に色々なことを試す中でその方法はわかると思います。又、この画面下部に朱書きで CD-ROM が挿入されたままになっている趣旨のコメントがありますが、これがリモート PC の少し厄介なところだと思います。試用期間中に何度も再インストールをして感触をつかむ事が必要ではないでしょうか。

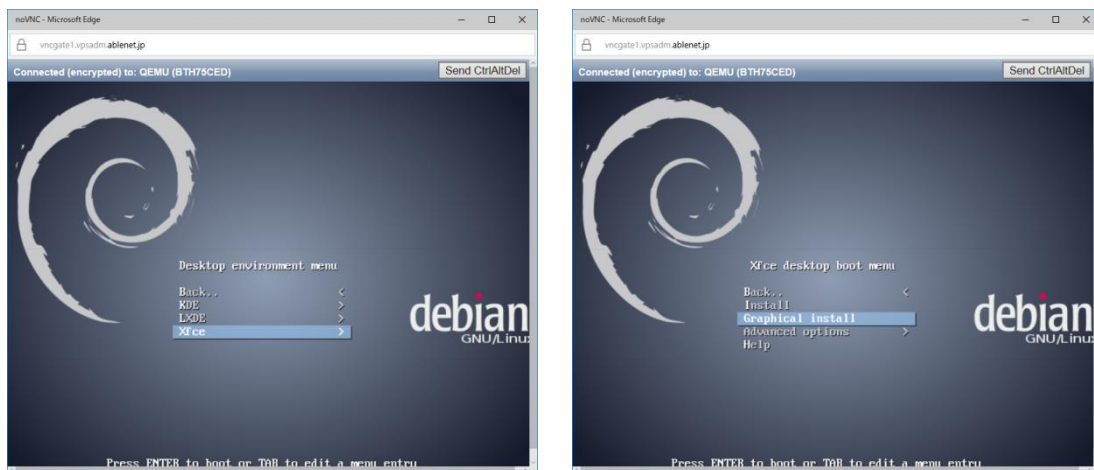


- ・「コンソール画面 (HTML5)」をクリックしたら次のような Debian インストール画面が表示されます。

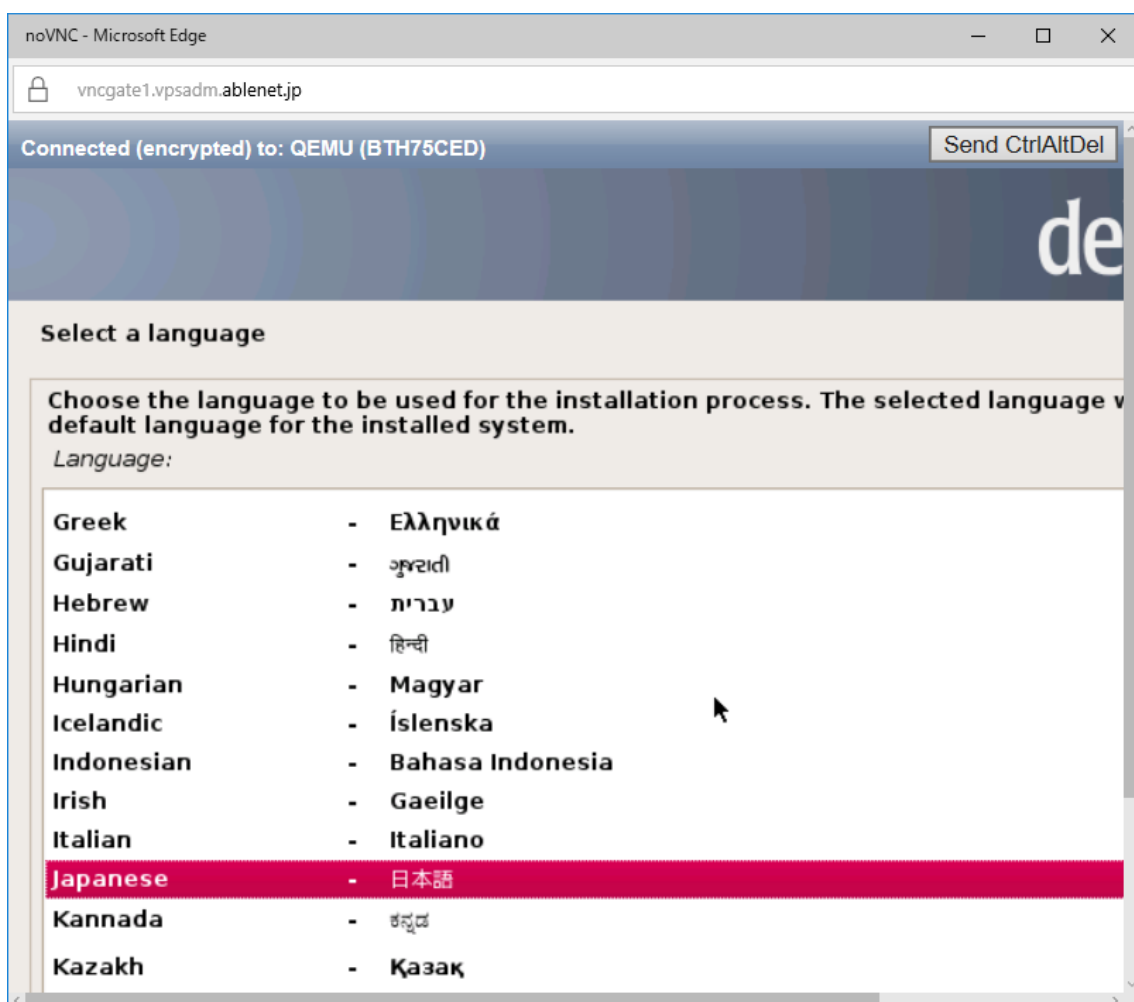
5. Debian 7.8(wheezy) x86_64 をインストールする

「コンソール画面 (HTML5)」をクリックして表示される Debian インストール画面で Advanced option→Alternative desktop environments→Xfce→Graphical install の順番に画面を開いていく。





- ・最後の Graphical install をクリックしたらよいインストール画面が開きます。最初に開いた画面(Select a language)をスクロールして「Japanese」を選択して次に進むと日本語画面（場所の選択）になるで「日本」を選択して更に次に進んだ画面（キーボードの設定）で「日本語」を選択してさらに進む。

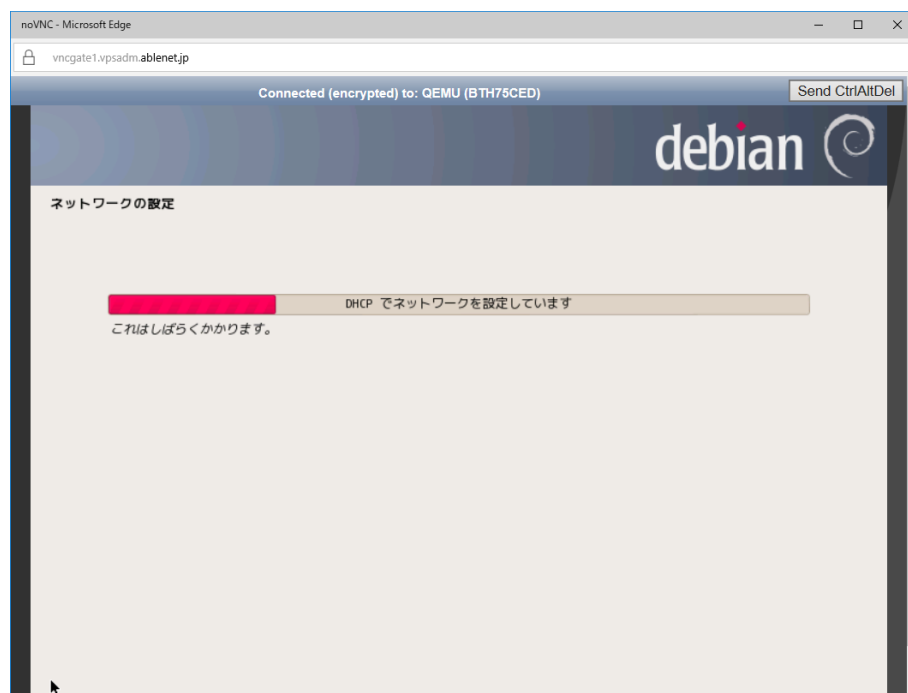




- ・ キーボードの設定が終わって次に進むと「CD からインストーラコンポーネントをロード」が始まる。



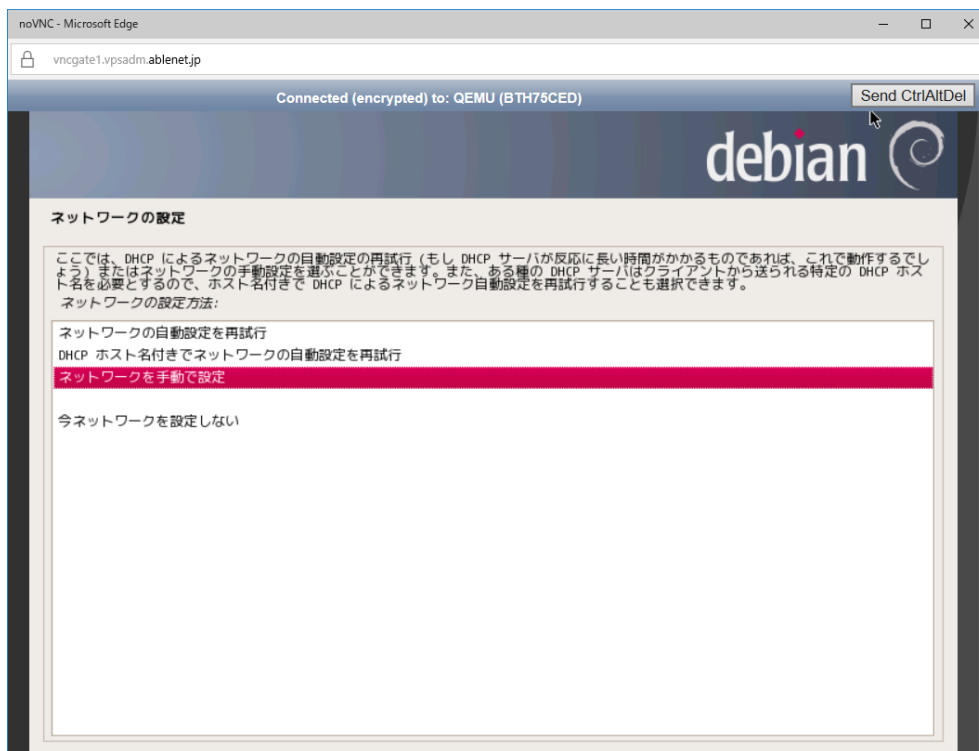
- ・ 「CD からインストーラコンポーネントをロード」が終わって次に進むと「ネットワークの設定」が始まる



- ・しかし、「ネットワークの自動設定に失敗しました」とのコメントが表示されるが、強制的に次へ進む。



- ・強制的に次へ進んで開いた画面で必ず「ネットワークを手動で設定」を選択する。



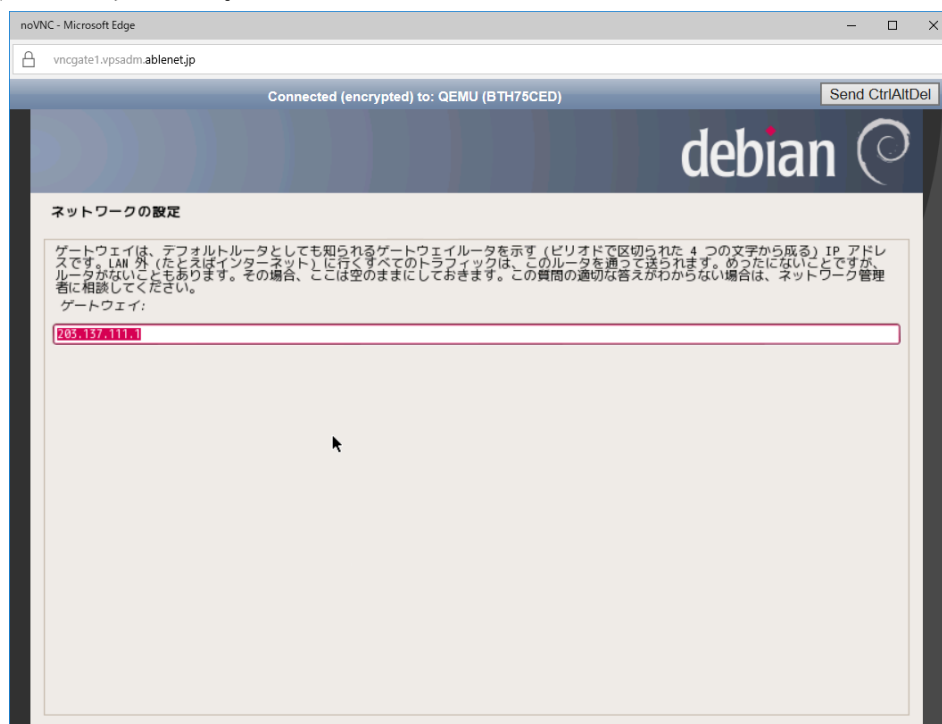
- すると IP アドレス入力画面が開くので「ABLENET」から連絡のあったアドレスを入力して次に進む。



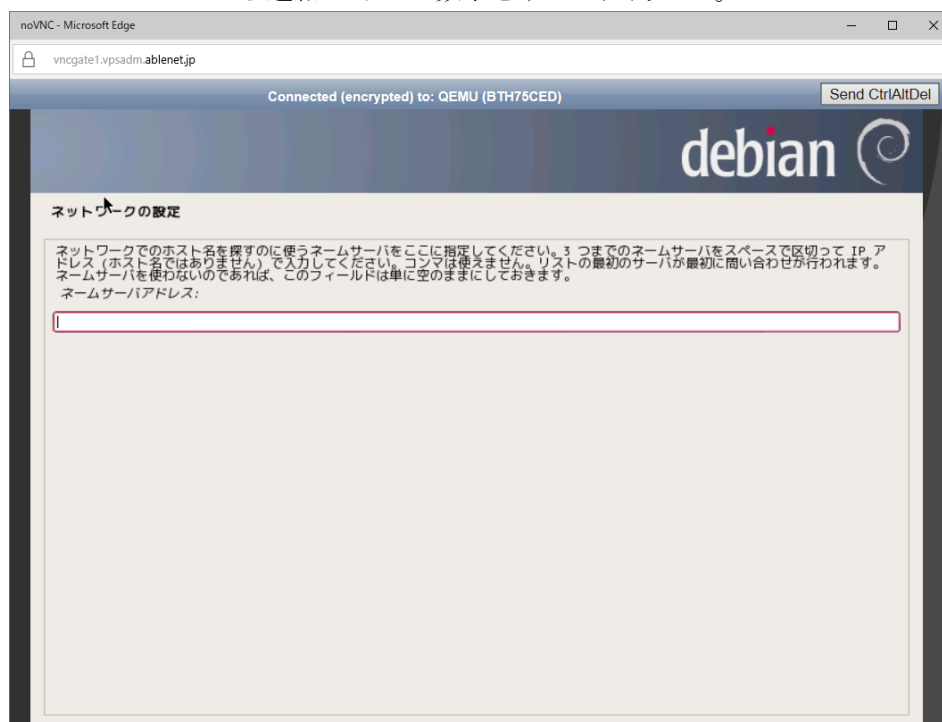
- ネットマスク入力画面が開くがデフォルトの 255.255.255.0 のまま次に進む。



- 続いてゲートウェイ入力画面が開くがデフォルト（ABLENET から割り当てられた値）のまま次に進む。



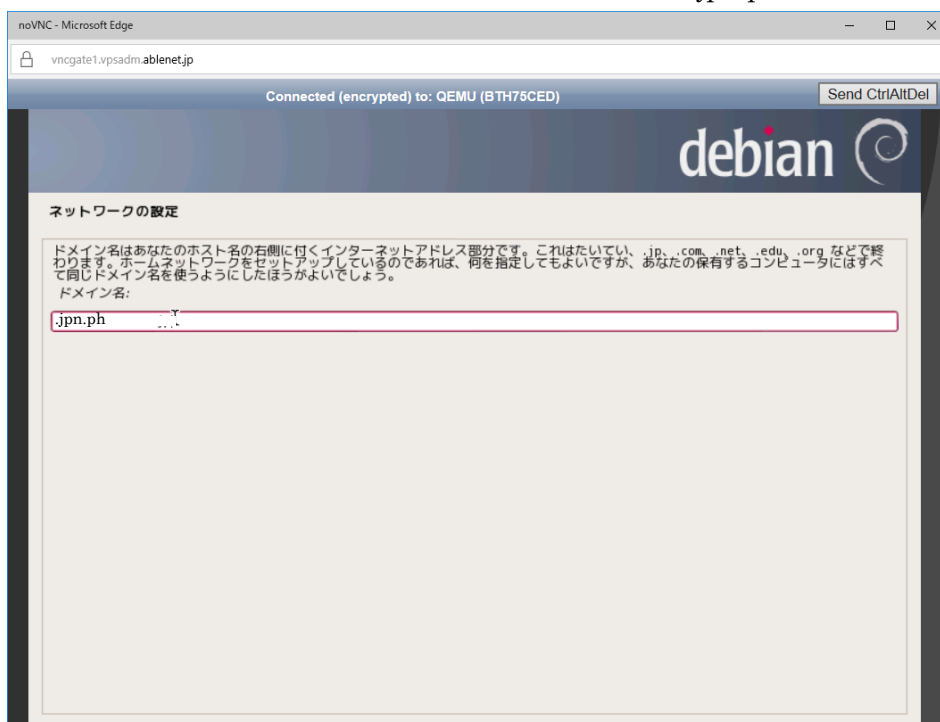
- 続いてネームサーバー入力画面が開くがこの意味が良く分からないままコメントに従って ABLENET から連絡のあった数字をすべて入力した。



- ・次はホスト名入力画面であるが、当局は自宅サーバーからの乗り換えなので **ieserver** から無料で取得した「**xlxreflector**」を入力した。**14 ページ必読、ieserver の無料ホスト名とドメイン名が使えることが判った結果をクドクドと書いています。**



- ・次はドメイン名入力画面もホスト名同様、ieserver から取得した無料の「**.jpn.ph**」を入力してホスト名とドメイン名が結合されて「**xlxreflector.jpn.ph**」になるようにする。



プロとアマチュアの違い

これは、プロが日常、当然のように使用している言葉が専門用語であるためその道での知識不足を免れない我々アマチュアとの違いを思い知らされた事例です。

まず、ABLENET サポート（プロ）に対して次のような質問をしました。

「御社設定値のホスト名とドメイン名を自分用に変更するための手続きは必要ですか？ それとも、OS インストールの時にホスト名とドメイン名を設定するだけでよろしいですか？
また、この変更は無料で使用できますか？」

それに対して ABLENET サポートから次のような回答を頂きましたがプロが当然のように使われていると思われる朱書の行がその道ではアマチュアで知識不足の当局には理解不能でした。プロの言う「順引き設定」とはどう言う事か、またその設定はどのようにするのが分からなかったのです。

千葉様

お世話になります。ABLENET サポートです。

お問い合わせについてですが、OS 内での設定については千葉様の自由に行って頂けます。OS 内の設定ですので手続きや費用は掛かりません。**DNS の逆引き設定が必要な場合については VPS の IP アドレス xxx.xxx.xxx.xx に向くよう順引き設定を行われた後、設定を希望されるホスト名をご連絡頂きますようお願いいたします。**こちらも費用は掛かりません。

以上、よろしくお願いいたします。

OS インストール時の画面のコメントを読んでも意味が理解できず、ABLENET から連絡のあったホスト名やドメイン名は仮のもので「運用時はお客様がご自由に設定頂いて構いません」と言うコメントをそのまま受け取り、VPS の仕組みが自分の好きなホスト名とドメイン名が ABLENET から割り当てられたグローバル IP アドレスを読み替えて <http://ja3ggj.xxx.com> 等として web が公開できるものと理解して、試用期間中に何度もインストールをやり直したり、ABLENET サポートに質問をしたが、回答の用語（順引きとか逆引きとか）さえも理解できずハタと困った。少し、頭を冷やして ABLENET サポートからの回答の中からヒントを得て、「VPS は自宅サーバーの延長で遠隔操作かそうでないかの違いだけではないか」と思い、そうであれば ABLENET が設定したホスト名(h xxx-xxx-xxx-xx)とドメイン名(vps.ablenet.jp)は、当局の場合、従来通り ieserver から取得した「xlxreflector」と「.jpn.ph」を使えばよいのではないかと言う事に気付きました。

レンタルの VPS（仮想遠隔 PC）に OS をインストールしてネットワーク設定完了後、仮想遠隔 PC から ieserver の IP アドレス変更画面にアクセスしたら ABLENET サポートから割り当てられたグローバル IP アドレスが表示されそのアドレスに更新するボタンをクリックするだけでよいことが判りました。此の状況は自宅サーバーでルーターの電源が止まった後に IP アドレスを ieserver で更新する手順と全く同じでした。

これは、「鶏が先か卵が先か」の話です。最初に ABLENET が設定したデフォルトのホスト名(h xxx-xxx-xxx-xx)とドメイン名(vps.ablenet.jp)で一旦インターネット接続が出来るようにしないと、ieserver の IP アドレスの変更をしてホスト名とドメイン名を自分のものに出来ないので、再度 OS のインストールが必要でしたが、これが、「**順引き設定を行われた後、設定を希望されるホスト名をご連絡頂きますようお願いいたします。**」とプロが言っている事なのかと思います。

このようにプロの方はいとも簡単に「何々をどうこうして下さい」と言われるが当局にはその「どうこう」の仕方が分らないことが多い。

- ・次に自分で決めたパスワードを入力しますが後で必要になるので必ずメモをして置く。ファイルサーバーをインストールして ABLE パネルを使わずに仮想遠隔 PC である VPS サーバーを FFFTP や TeraTerm など遠隔から操作するとき必要。



- ・次に自分で決めた新しいユーザの本名を入力します。これも後で必要になる場合があるのでメモをして置く。



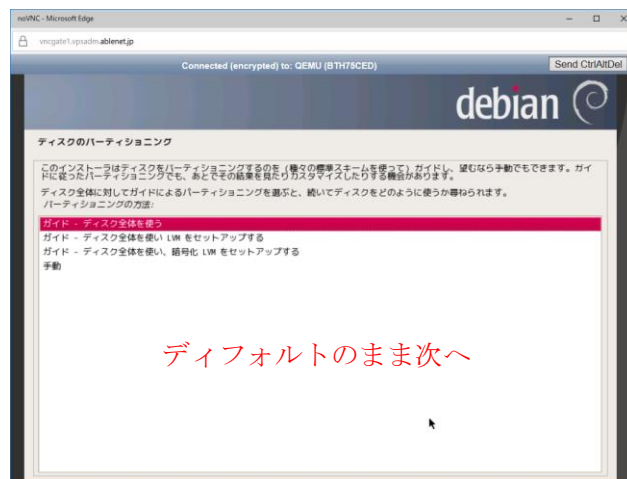
- ・続いて自分で決めたアカウントのユーザ名を入力します。意味が良く分からないので新しいユーザの本名と同じにした。

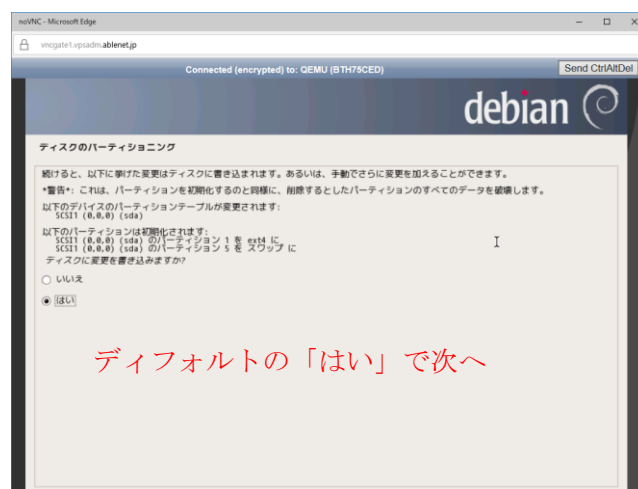
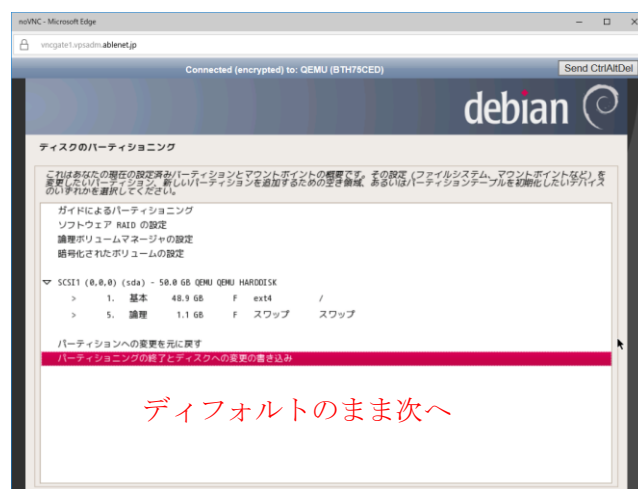
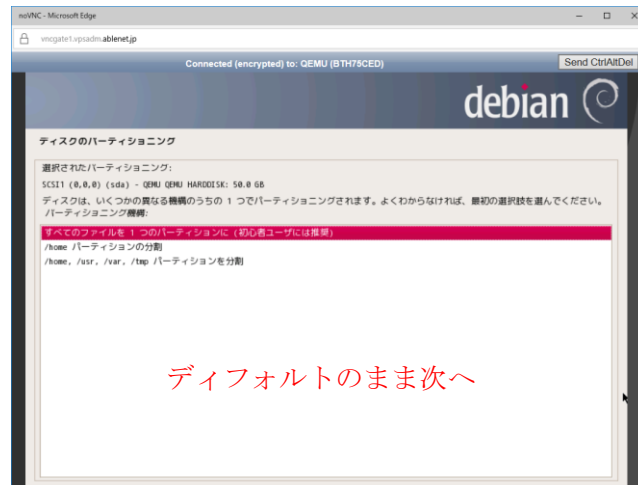


- 更にパスワードの入力が必要ですが、このパスワードも先に入力した同じパスワードを入力した。



- 二回目のパスワード入力が終わるとディスクのパーティショニングが始まるが、すべてデフォルトのまま次に進みます。





- するとベースシステムのインストールが始まります。



- 次にパッケージマネージャーの設定画面になりますが「別の CD や DVD の検査」はしないのでデフォルトの「いいえ」で次に進みます。



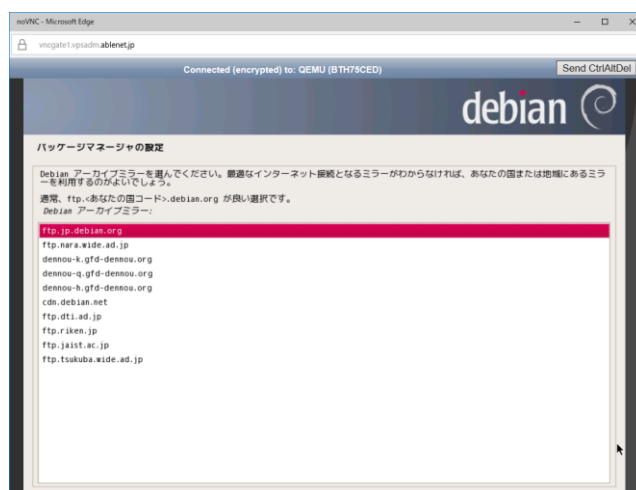
- 次に画面の「ネットワークミラーを使いますか？」は「はい」で次に進みます。



- 次のパッケージマネージャの設定に移ったら「日本」を選択して次に進みます。



- 次の画面に移ったら「Debian ミラーアーカイブミラー」はデフォルトで次に進みます。



- 次の画面でも「http プロキシの情報」は無いのでデフォルトの空で次に進みます。



- するとパッケージマネージャの設定が始まります。終わったら次へ進みます。



- 今度はソフトウェアの選択とインストールが始まります。終わったら次へ進みます。



- 次の画面ではデフォルトの「いいえ」で次へ進みます。



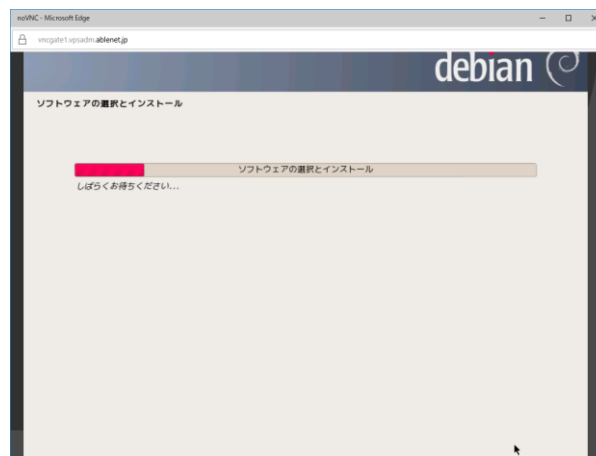
- ・ 次はソフトウェアの選択とインストールの続きの画面が開きます。終わったら次へ進みます



- ・ 開いたソフトウェアの選択画面でデフォルト以外のソフトウェアを選んで次へ進みます



- ・ しばらくお待ちくださいの画面が表示されます。



- ・しばらくお待ちくださいの画面が閉じてハードディスクへの GRUB ブートローダーのインストール画面になるので「はい」を選択して次へ進む。



- ・ハードディスクへの GRUB ブートローダーのインストールシーク中の画面が表示される。

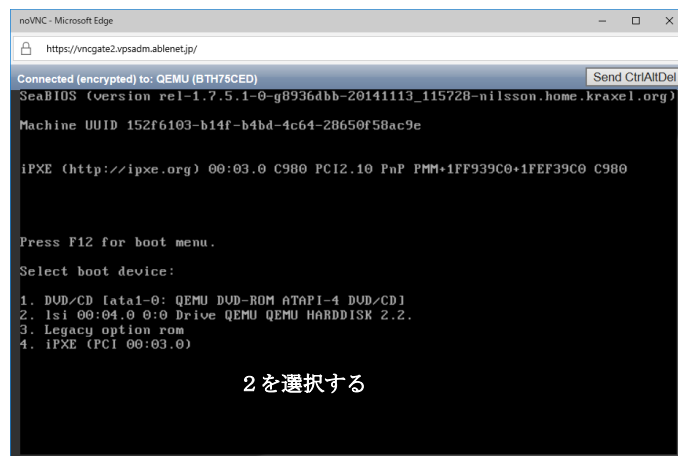


- ・ハードディスクへの GRUB ブートローダーのインストールシーク中の画面がきえてインストール完了画面になるので画面右上の「SendCtrlAltDel」クリックして次の画面が開きかけたら F12 キーを素早く押す。

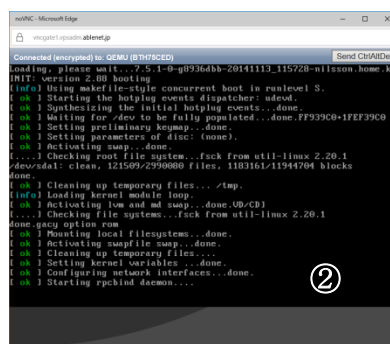
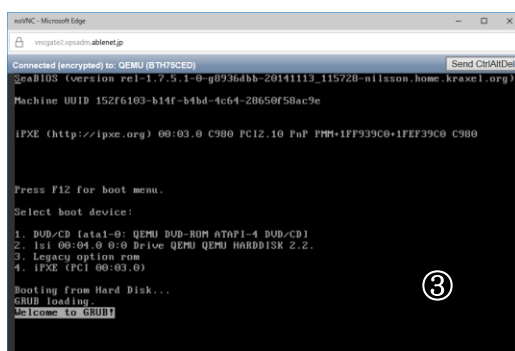
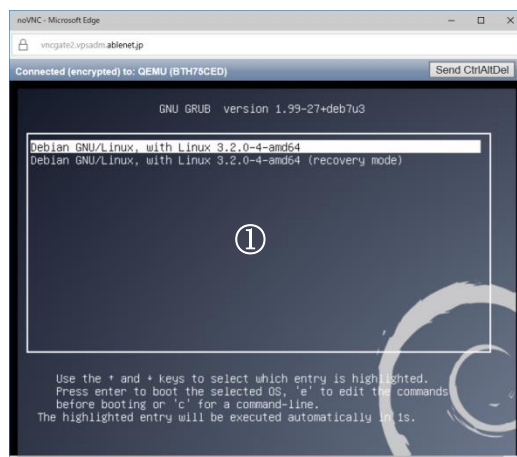


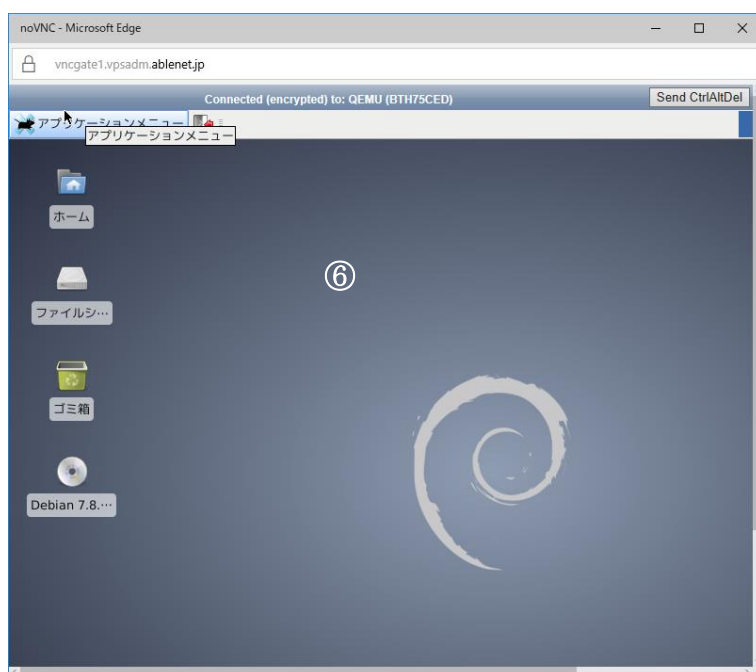
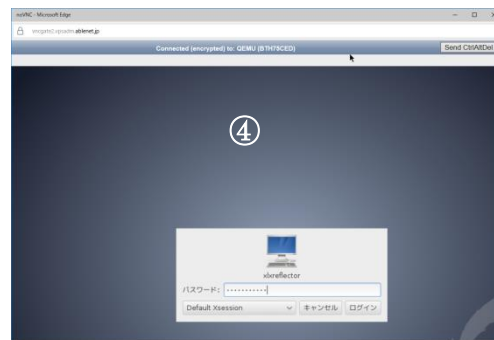
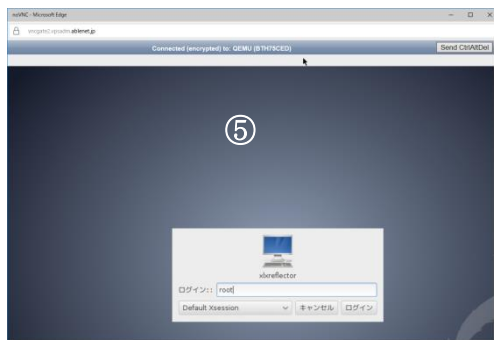
- ・ 何から起動するかデバイスを指定する画面になるので先ほど OS をインストールしたハードディスクからきどうするので「2」を選択してクリックする。

この時、CD-ROM が装着されたままなので何もしないと自動的に初めの OS インストール画面になるので注意。



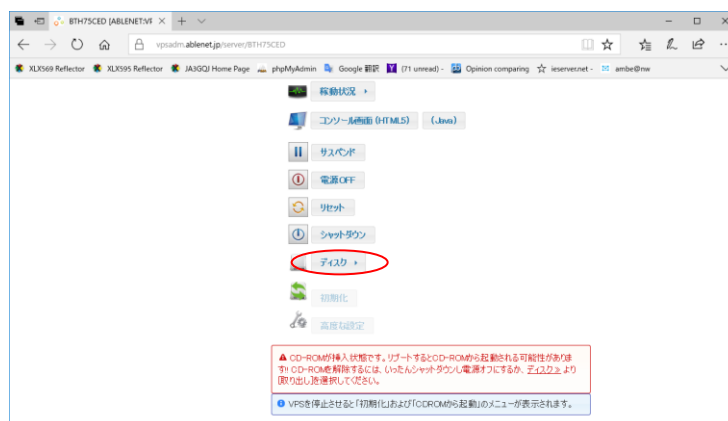
- ・ するとインストールした OS の起動が始まる。
以下①～⑥は起動完了までの画面の移り変わりです。





- ・インストールした OS が起動したときの Debian7.8(weezy)の GUI 画面⑥には CD-ROM が表示されているので次の手順で CD-ROM を取り出します。

- 初めに OS をインストールした手順で「BTH75SCED :VPS 管理」画面を開いてスクロールすると画面下部に朱書きで「CD-RO が挿入された状態です。・・・」とのコメントがあります。その上に「ディスク」のボタンがありますのでクリックします。



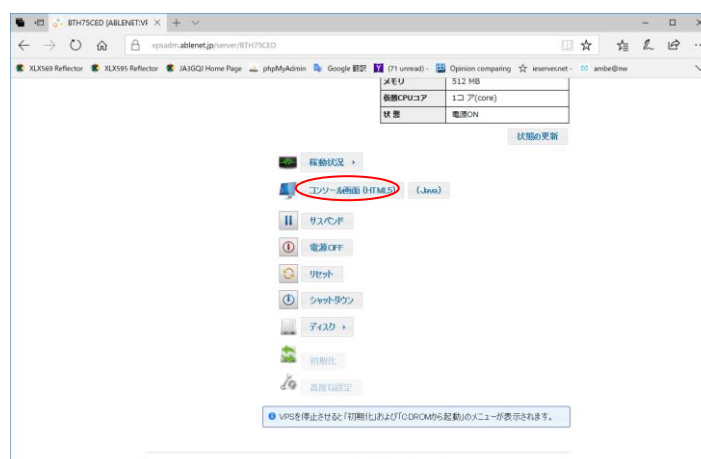
- b) 開いた「BTH75SCED :ディスク」画面の CD/DVD-ROMにある「取り出し」ボタンをクリックします。



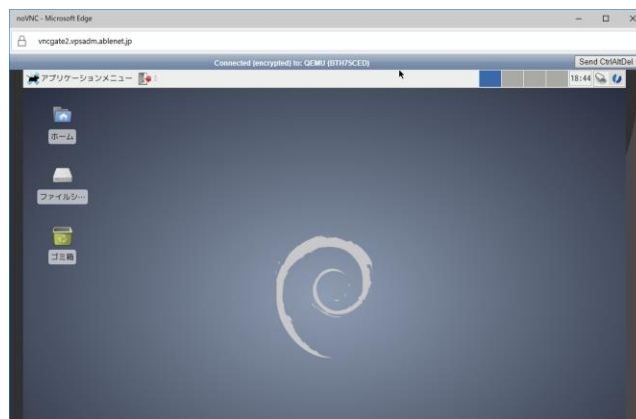
- c) 「取り出し」ボタンが消えたら「BTH75SCED」をクリックします。



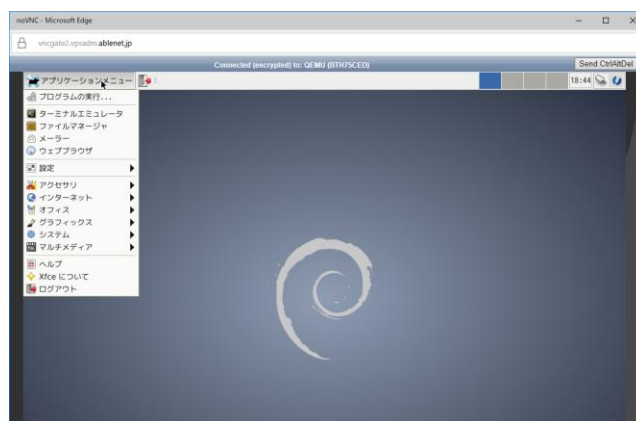
- c) 「BTH75SCED :VPS 管理」画面にもどりますので「コンソール画面(HTML5)」をクリックします。(下図は画面をスクロールして下の方を表示しています。)



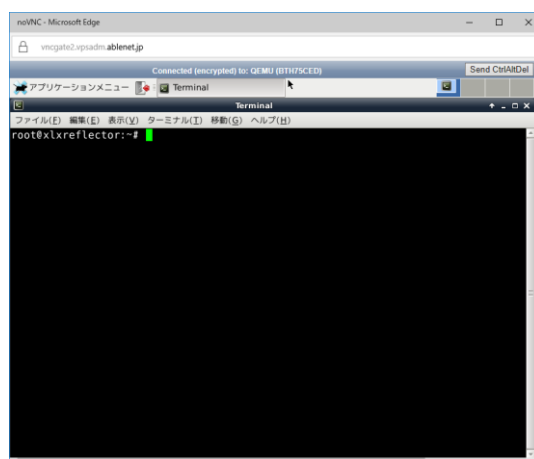
d)これで CD-ROM を取り出した Debian7.8(weezy)の GUI 画面になります。



e) GUI 画面で「アプリケーションメニュー」をクリックして表示されたリストから「ウェブブラウザ」を選択してブラウザウィンドウを開き、インターネットに接続されていることを確認します。



f) 続いて「ターミナルエミュレータ」がルート権限で開くかどうかをかくにして OS のインストールは完了です。



別紙、XLX ソフトインストール体験記に続く 12/9/2017